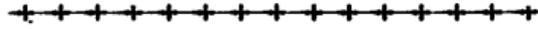
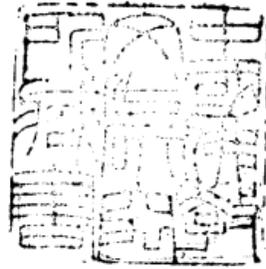


大新 正修 大藏經索引



第三十二冊
續經疏部

—



新文豐出版公司 影印

大新修 大藏經索引 第32冊 續經疏部一

中華民國81年4月台1版

精1册基價15.7元

編集者：大藏經學術用語研究會

發行者：高 本 釗

發行及印刷所：新文豐出版公司

公司：臺北市雙園街96號

電話：3060757·3088624

門市部：臺北市羅斯福路一段20號8樓

電話：3415293·3415294

台北郵政 3643 信箱

登記證：局版臺業字第0649號

郵政劃撥：01004426號

ISBN 957-17-0447-4 (套)

ISBN 957-17-0448-2 (第三十二册：精裝)

出版說明

本「大正藏續編索引」第三二至四八冊係根據大正新修大藏經續編第五六至八五冊所作諸內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學——立正、大谷、大正、龍谷、駒澤、高野山等負責編撰本索引，深獲各界好評，特此推介學林，以公諸讀者。

凡其五五冊正編部份所作三一冊索引，業於民國六十九年景印刊行，屢經讀者多方詢問：何時得以全部出齊，以利學者應用；經數年來考核評量，並得鄰國日本諒解，為使此國際性工具書，俾以完整面目提供學者使用，特此全數景印，有了這部索引，任何問題都可以迎刃而解，可知此部索引存在價值是何等珍貴，謹此說明。

本公司編輯部 謹啟壬申年元月

簡介研讀大藏經的工具書

楊白衣

～法寶總目錄與大藏經索引之功用～

研讀大藏經是每一位佛子嚮往的終身大事，不研究則已，若想研究，則非賴特殊工具書莫辦。過去研究佛學，一、靠辭典，二、靠年表，三、靠經書目錄，但這些工具書已無法收到事半功倍之效，勢必另覓他途解決。

日本學者對此提供了最有力的工具書二種，其嘉惠學界之深，誠令吾人嘆為觀止！此二種工具書，一曰『法寶總目錄』，一曰『大藏經索引』。案此二部書之主要功用如下：

一、法寶總目錄之功用可查下列事項：

- (一)知著者而不知其著作。
- (二)知經書而不知著者、譯者。
- (三)知經書而不知有無異譯本。
- (四)知經書而不知何代、何年、何人之著譯。
- (五)知經書而不知內容章節。
- (六)知經書而不知在何處（第幾冊、幾頁）
- (七)知經書而不知有無前人之註解。
- (八)查著譯者之籍貫、俗姓、生卒年。
- (九)查經書之原名、漢譯名、日譯名。
- (十)查經書在各種版本之歸屬。

二、大藏經索引之功用有下列事項：

- (一)查法相、名數之所在以及定義等。
- (二)查人名、地名等所有固有名詞之原名，出現次數以及同名異人。
- (三)查某一術語在某一部經書中之用例、定義、異名及在各宗派中之觀點。
- (四)查五十種分類項目（詳如下表）之所在以及佛教的人生觀、宇宙觀。
- (五)查典籍之解題以及在國際上現今的研究成果。
- (六)查每冊藏經之詳細內容以及佛教之觀點。

『法寶總目錄』共三巨冊，除檢查上述各種要目之外兼有經錄的性質，不但收錄了各版本藏經，如『明藏』、『卍藏』、『卍續藏』等目錄，以及名庫所藏之書目，且有智旭大師的『閱藏知津』與陳實的『大藏一覽集』，可查每一部經律論（一七七三部）之解題、音義、傳記、疏鈔、目錄、纂集、護教、序讚、詩歌等，極為方便。

『大藏經索引』是根據日本『大正新修大藏經』（中華文化會館及新文豐出版公司影印之大藏經）前五十五冊所作之內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學負責編撰的索引。其索引之計劃工作本以名學者小野玄妙博士（佛書解說大辭典作者）為中心，從民國三十二年開始著手，並已刊行了阿含部、目錄部、法華部各乙冊。這個計劃後來由於博士之逝世和第二次世界大戰之影響而不得不告中斷。直到民國四十五年由大谷大學，高野山大學，駒澤大學、大正大學、立正大學、龍谷大學等六所佛教大學重新提議，計劃把『大正新修大藏經』中之印度、中國、日本等三國選述之部分共計八十五冊之內容作成索引四十八冊以利學者應用。這六所佛教大學合議之結果，組成大藏經學術用語研究會，對內容的分類項目先行檢討後，決定以下列的原則展開工作。

一、以小野玄妙博士之計劃為藍本，分為分類項目別索引、音次索引、字劃索引、四角號碼索引、梵語索引、使其成為國際性之工具書。

二、用語之選擇，以漢譯大藏經為準，以總合研究之方法，每頁選出五十個學術用語，而把它配於五十種分類項目。五十種分類項目，以印度撰述部分為中心，而每項目之下再細分若干細目，其詳目如下：

1. 教 說：經典分類名目（三藏、九分教、十二分教等）……a通說 b三藏 c九分教 d十二分教
2. 教 判：有關大乘小乘，一乘三乘，密宗及各宗判教之用語……a通說 b大小乘 c一三乘 d各說
3. 教 理：表示教理之用語如三法印、空、中、緣起、佛性、如來藏等……a通說 b各說
4. 法 相：有關構成宇宙萬象的現象與本體之用語，與五位諸法有關連的名稱……a通說 b色法 c心法 d非色非心法
5. 惑 業：有關說明輪迴的惑障，業道之用語（除緣起、因果）……a通說 b惑 c業 d苦
6. 行 位：表示修行道位及得果的有關斷惑證理之用語……a通說 b凡夫位 c聲聞緣覺位 d菩薩位

- 7.戒律：有關戒律之種類、細目、持犯等之用語……a通說 b各說
- 8.禪觀：有關一般禪定、三昧、觀法之用語……a通說 b禪定 c觀法
- 9.世界：有關三界、六道等之用語……a通說（包括三界六道，二十五有）b天 c大 d地獄 e餓鬼 f畜生 g阿修羅 h其他
- 10.佛：有關佛的德性、身土、佛名、諸尊之用語……a通說 b德性 c佛身 d佛土 e佛名 f諸尊
- 11.人名：按照身分分類之固有名詞……a比丘比丘尼 b優婆塞優婆夷 c仙人 d外道 e菩薩 f其他
- 12.教派：有關學派、宗派之用語……a學派 b宗派
- 13.教團：有關僧伽、教團之法規及僧階之用語……a通說 b法規 c僧階 d其他
- 14.寺院：有關寺院之用語……a通說 b各說
- 15.信仰：有關各種信仰之用語……a通說 b各種信仰（包括稱名唱題等）
- 16.儀禮：有關佛事及僧眾等一般儀式、作法之用語……a通說 b佛事 c作法 d僧眾行儀
- 17.事相：有關密宗四度加行、灌頂行法之用語……a通說 b行法 c四度加行 d護摩 e灌頂 f其他
- 18.曼荼羅：有關密宗行法修行之本尊曼荼羅之用語……a通說 b各說
- 19.印契：有關密宗於行法時結印契（手印）之用語……a通說 b各說
- 20.陀羅尼：有關陀羅尼之用語……a通說 b真言（純密） c其他
- 21.外教：有關婆羅門教，印度諸學派、儒教、道教、神道之用語……a通說 b婆羅門 c印度諸學派 d儒教 e道教 f神道 g其他
- 22.咒術：有關幻化、咒術之用語……a通說 b幻化 c咒術
- 23.天文曆數：有關天文、時節、方位、算數、度量衡之用語……a通說 b日月星宿 c氣象 d時分 e歲月 f宿曜曆及吉凶日 g方位 h算數 i度量衡
- 24.地理：有關地理、地名之用語……a通說 b地名 c山名 d水名 e園林名
- 25.動物：有關動物之用語……a通說 b各說
- 26.植物：有關植物之用語……a通說 b各說
- 27.礦物：有關礦物之用語……a通說 b各說
- 28.物理：認為與物理，化學有關之用語……a通說 b色 c形狀 d聲音 e光熱
- 29.論理：有關因明，論理學之用語……a因明 b論理。

- 30.心理：認爲與心理學有關之用語
- 31.倫理：有關倫理、道德之用語（例如恩義等）
- 32.教育：有關教育之用語。
- 33.生理衛生：有關生理與衛生之用語……a通說 b身體 c出生 d生理 e衛生
- 34.醫術藥學：有關醫術、藥學之用語……a通說 b療法 c病名 d藥
- 35.民族：有關民族、種族之用語……a民族 b種族 c其他
- 36.社會：有關家族、身分、階級等之用語……a通說 b家族 c身分 d階級 e其他
- 37.政治經濟：有關政治、法制、軍事、經濟之用語……a通說 b行政 c法律 d財政 e軍事
- 38.產業：有關一般職業之用語……a通說 b職業
- 39.風習：有關飲食、衣服、風俗之用語……a通說 b食物 c調味料 d飲料 e衣服 f裁縫 g風俗 h娛樂
- 40.言語：有關語言之種類、文字、文法、翻譯之用語以及梵語，巴利語等之音譯名詞……a通說 b種類 c文字 d文法 e翻譯 f音譯名詞 g其他
- 41.名數：以數目合成之用語
- 42.典籍：有關一般典籍之用語（包括品名）
- 43.紀年：有關年號、干支、王朝等之用語
- 44.文藝：譬喻、因緣、詩頌等與文藝有關之用語……a通說 b本生 c因緣 d譬喻 e文疏 f詩偈
- 45.音樂：有關音樂之用語……a通說 b音聲律呂 c調子 d聲譜 e典目 f樂器。
- 46.建築：有關建築之用語……a通說 b種類 c規模 d技法 e堂舍
- 47.圖像：有關佛、菩薩等的繪畫、彫刻之用語……a通說 b繪畫 c彫刻
- 48.工藝：有關美術工藝之用語……a通說 b題目 c形像 d素材 e技巧
- 49.器物：有關器具、佛具之用語……a通說 b佛具 c器具
- 50.雜語：不屬於上述四十九項目之詞彙

六家大學的分擔情形，到目前爲止已出版者如下：

甲、印度撰述部

索引第一册	阿含部	駒澤大學	大正藏第一、二册
索引第二册	本緣部	高野山大學	大正藏第三、四册
索引第三册	般若部	大正大學	大正藏第五～八册

索引第四册	法華涅槃部	龍谷大學	大正藏第九、第一二册
索引第五册	華嚴部	龍谷大學	大正藏第九、一〇册
索引第六册	寶積部	大谷大學	大正藏第一一、一二册
索引第七册	大集部	龍谷大學	大正藏第一三册
索引第八册	經集部(上)	駒澤大學	大正藏第一四、一五册
索引第九册	經集部(下)	大谷大學	大正藏第一六、一七册
索引第一〇册	密教部(上)	高野山大學	大正藏第一八、一九册
索引第一一册	密教部(下)	大正大學	大正藏第二〇、二一册
索引第一二册	律部(上下)	駒澤大學	大正藏第二二~二四册
索引第一三册	釋經論部中觀部	駒澤大學	大正藏第二五、二六、三〇册
索引第一四册	毘曇部(上)	立正大學	大正藏第二六~二八册
索引第一五册	毘曇部(中)	龍谷大學	大正藏第二六~二八册
索引第一六册	毘曇部(下)	大谷大學	大正藏第二九册
索引第一七册	瑜伽部(上下)	立正大學	大正藏第三〇、三一册
索引第一八册	論集部	龍谷大學	大正藏第三二册

乙、中國選述部

索引第一九册	經疏部(一)	大正大學	大正藏第三三、三四册
索引第二〇册	經疏部(二)	大谷大學	大正藏第三五、三六册
索引第二一册	經疏部(三)	龍谷大學	大正藏第三七、三八册
索引第二二册	經疏部(四)	高野山大學	大正藏第三八、三九册
索引第二三册	律疏部論疏部(一)	龍谷大學	大正藏第四〇、四一册
索引第二四册	論疏部(二)	大谷大學	大正藏第四二~四四册
索引第二五册	諸宗部(一)	立正大學	大正藏第四四、四五册
索引第二六册	諸宗部(二)	大正大學	大正藏第四六、四七册
索引第二七册	諸宗部(三)	駒澤大學	大正藏第四七、四八册
索引第二八册	史傳部(上)	大谷大學	大正藏第四九、五〇册
索引第二九册	史傳部(下)	龍谷大學	大正藏第五一、五二册
索引第三〇册	事彙部外教部	高野山大學	大正藏第五三、五四册
索引第三一册	目錄部	立正大學	大正藏第五五册

丙、日本撰述部

索引第三二册	續經疏部(一)	立正大學	大正藏第五六、五七册
索引第三三册	續經疏部(二上)	高野山大學	大正藏第五八、五九册
索引第三四册	續經疏部(二下)	高野山大學	大正藏第六〇、六一册
索引第三五册	續律疏部	駒澤大學	大正藏第六二册
索引第三六册	續論疏部(一)	大谷大學	大正藏第六三~六五册
索引第三七册	續論疏部(二上)	龍谷大學	大正藏第六五、六六册
索引第三八册	續論疏部(二下)	龍谷大學	大正藏第六六~六八册
索引第三九册	續論疏部(三)	龍谷大學	大正藏第六八~七〇册
索引第四〇册	續諸宗部(一)	立正大學	大正藏第七〇、七一册
索引第四一册	續諸宗部(二)	大谷大學	大正藏第七二~七四册
索引第四二册	續諸宗部(三上)	大正大學	大正藏第七四~七七册
索引第四三册	續諸宗部(三下)	高野山大學	大正藏第七七册
索引第四四册	續諸宗部(四)	高野山大學	大正藏第七八、七九册
索引第四五册	續諸宗部(五)	駒澤大學	大正藏第八〇~八二册
索引第四六册	續諸宗部(六)	大谷大學	大正藏第八三、八四册
索引第四七册	古逸部、疑似部	駒澤大學	大正藏第八五册
索引第四八册	悉曇部	大正大學	大正藏第八四、八五册

本索引之最大特色為站在最新的研究成果，以梵文、巴利文等音譯，固有名詞為中心，盡量地附註羅馬字拼音的原文。

『大藏經索引』用途之大，吾人得由五十種分類項目窺見一斑，於此不但可見佛法大海之廣闊無邊，且能證明佛法之多面性格，其內容有人文科學、社會科學、自然科學，應有盡有。以前吾人研究佛學總有望洋興嘆，不知所措之感，現在有了這部索引，任何問題都可迎刃而解，吾人可隨意查閱自己所欲了解之事項。於此不但可查出該用語在大藏經中的所在（頁數），亦可比照各宗派對該問題之看法。不像已往想查尋一個問題往往得花費許多時間，仍無法解決問題，至於想比較研究那就更困難了。例如：有關「業」與「輪迴」之問題來說，可將原始佛教、部派佛教、大乘佛教中較代表性之經論，如：阿含經、俱舍論、成業論、中觀論等之有關「業」與「輪迴」之記載，依索引的指示抄錄出來，然後加以研究原義以及發展的過程。這豈不是輕而易舉之事。在未有索引以前吾人必須讀破整部經典，方能洞悉該問題之所在，而且仍無法收集完整的資料。

又例如吾人想知道佛教對生理衛生的看法，對國家、社會的看法，則可隨便找一本索

引，查閱有關這些問題之所在，然後找某一部經論研讀。這在以前是做夢也想不到的事，由此可知這部索引之存在價值是何等地珍貴了。

總之，研究佛學『法寶總目錄』與『大藏經索引』為學者不可缺的重要工具書。

收 錄 典 籍 解 題

本卷は大正新脩大藏經第五十六卷續經疏部一と第五十七卷續經疏部二に収録されている諸典籍の索引である。

[収録典籍]

經典番號	典籍名・卷數	撰 者 名
(第五十六卷)		
No. 2185	勝鬘經義疏 (1卷)	日本 聖德太子撰
No. 2186	維摩經義疏 (5卷)	日本 聖德太子撰
No. 2187	法華義疏 (4卷)	日本 聖德太子撰
No. 2188	法華略抄 (1卷)	日本 明 一 撰
No. 2189	妙法蓮華經釋文 (3卷)	日本 中 算 撰
No. 2190A	法華經開題 (1卷)	日本 空 海 撰
	B 法華經開題 (1卷)	
	C 法華經釋 (1卷)	
	D 法華經開題 (1卷)	
	E 法華經密號 (1卷)	
	F 法華略祕釋 (1卷)	
	G 法華開題 (1卷)	
No. 2191	法華經祕釋 (1卷)	日本 覺 鑊 撰
No. 2192	入眞言門住如實見講演法華略儀 (2卷)	日本 圓 珍 撰
No. 2193	註無量義經 (3卷)	日本 最 澄 撰
No. 2194	佛說觀普賢菩薩行法經記 (2卷)	日本 圓 珍 撰
No. 2195	法華開示抄 (28卷)	日本 貞 慶 撰
	[附] 無量義經開示抄 (1卷)	
	普賢經開示抄 (1卷)	
No. 2196	金光明最勝王經玄樞 (10卷)	日本 願 曉 等 集
No. 2197	金光明最勝王經註釋 (10卷)	日本 明 一 集
No. 2198	最勝王經羽足 (1卷)	日本 平 備 撰

No. 2199	最勝王經開題（1卷） 〔附〕金勝王經祕密伽陀（1卷）	日本 空海 撰
No. 2200	仁王經開題（1卷） （第五十七卷）	日本 空海 撰
No. 2201	金剛般若波羅蜜經開題（1卷）	日本 空海 撰
No. 2202	般若心經述義（1卷）	日本 智光 撰
No. 2203A	般若心經祕鍵（1卷）	日本 空海 撰
	B 般若心經祕鍵略註（1卷）	日本 覺鑊 記
No. 2204	般若心經祕鍵開門訣（3卷）	日本 濟暹 撰
No. 2205	華嚴演義鈔纂釋（38卷）	日本 湛叡 撰
No. 2206A	新譯華嚴經音義（1卷）	日本 喜海 撰
	B 貞元華嚴經音義（1卷）	日本 喜海 撰
No. 2207	淨土三部經音義集（4卷）	日本 信瑞 纂
No. 2208A	淨土疑端（4卷）	日本 顯意 述
	B 觀經義賢問愚答鈔（1卷）	日本 證忍 記
	C 觀經義拙疑巧答研覈鈔（1卷）	日本 顯意 述
No. 2209	觀經疏傳通記（15卷）	日本 良忠 述
No. 2210	阿彌陀經略記（1卷）	日本 源信 撰

以上の諸典籍を同一項目に分類するのは適當でないものもあるが、大正新脩大藏經の配列の順に従って一應概括すれば

- (1) No. 2185『勝鬘經義疏』より No. 2187『法華義疏』までは三經義疏
- (2) No. 2188『法華略抄』より No. 2195『法華開示抄』までは法華經關係
- (3) No. 2196『金光明最勝王經玄樞』より No. 2200『仁王經開題』までは金光明經關係
- (4) No. 2201『金剛般若波羅蜜經開題』より No. 2204『般若心經祕鍵開門訣』までは般若經關係
- (5) No. 2205『華嚴演義鈔纂釋』より No. 2206B『貞元華嚴經音義』までは華嚴經關係
- (6) No. 2207『淨土三部經音義集』より No. 2210『阿彌陀經略記』までは淨土三部經關係

となる。

(1) 三經義疏

No. 2185～2187は、聖德太子（574～621または622）の撰述と伝えられる『勝鬘經義疏』、『維摩經義疏』、『法華經義疏』である。「三經義疏」とか「太子三經疏」とも稱されて、廣く世に流布してきた。いずれも、わが國で成立した現存最古の經疏である。しかし、この「三經義

疏」の撰述者の眞偽については議論が多く、現在もこれを聖徳太子の眞撰と断定できるまでにはいたっていない。『日本書紀』には、太子が三十三歳のとき、推古天皇に『勝鬘經』と『法華經』を講説したという記録はあるが、それらの經疏を造ったということはない。『上宮聖徳太子傳補闕記』には、推古天皇十七年（609）四月～十九年正月に『勝鬘經義疏』を製し、同二十年正月～二十一年九月に『維摩經義疏』を製し、同二十二年正月～二十三年四月に『法華經義疏』を製したとあり、これらの義疏が造られたのは、太子が三十六～四十二歳の間（609～615）であったことになる。このほかにも太子撰述を記す記録はいろいろあるが、それらがいずれも、太子没後百年以上も後の文獻であることや、また政治の激職にあった太子がこれらの専門的な思想書を著わしたであろうかという疑問が示されている。また『維摩經義疏』に限って言えば、太子より後の杜正倫の『百行章』がその中に引かれていること等が偽撰説の論據として提示されている。しかし眞撰と見る説も有力である。それは、太子没後百年餘の頃には、三疏ともすでに太子撰述と看做されていたこと、引用の典籍は南北朝時代の（梁の光宅寺法雲など）ものばかりで数少なく隋唐のものは採用されていないこと、『維摩經義疏』中の『百行章』の引用とても後代の加筆であるという可能性もあること等々による。これらは聖徳太子撰述説の積極的な根據になりえないとしても、その可能性を助證するものである。加えて文章に漢文としての誤り（いわゆる和臭）が、散見されるのも、少なくとも中國人の作でないことを示すものである。また流布の状況から見ても、朝鮮撰述を考えることも出来ない。

よって聖徳太子あるいは太子とほぼ同時代の日本人による製作と考えるのが一般的である。しかし註釋する經典として、この三經を選んだことと理由、および三疏の内容等を考えあわせると、「三經義疏」が（そのすべてが、あるいはそのいずれかが）眞撰であろうと偽撰であろうと、攝政という爲政者としての地位や役割、そしてその行蹟等と関連せしめて考察されるべきものであることを知る。

聖徳太子が特に當時すでに大陸で重要な經典となってもいた『勝鬘經』・『維摩經』・『法華經』の三經を選んだということは、三經の内容が世俗にあって爲政者として佛教の救済と理想を実現しようと意圖した太子の目標に沿うものであったからであるとも考えられている。勝鬘夫人が主人公である『勝鬘經』を講義したのは、推古天皇が女帝であったということとも関係するであろう。

「三經義疏」の撰述の順序は、文獻上の記録および内容の比較検討の結果から、『勝鬘經義疏』、『維摩經義疏』、『法華經義疏』の次第であったと推定されてもいる。

聖徳太子の當時、中國では既に多數の經論が盛行し、その整理・註釋・研究も顯著に試作されていた。しかし我國では渡來の經典や註釋類もいまだ少數であった。加えて讀解も容易ではなかったと思われる。太子が『勝鬘經義疏』の撰述を始めたとされる推古天皇十七年（609）は、第二次遣隋使の小野妹子が歸朝した年である。太子は大陸との交渉の困難な中で入手した註釋書を参照し、高麗僧の慧慈や百濟僧の慧聰から習學しながら、經典を理解し忠實に祖述しよう

と努力したのであろう。しかも多くの部分で取舍選擇をなし批評文言を加え、時に自説を主張し独自の見解を提示している。太子独自の理解知見は、例えば、『勝鬘經義疏』における身・命・財の三捨の解釋、『維摩經義疏』における佛國土・淨土の追究、不有亦不無の論究、『法華經義疏』における「常好坐禪」云々に對する反論などに見ることができると指摘されている。

「三經義疏」の作者が太子撰であるとする、統治爲政の地位にある人物が佛典の講義をなし、加えてその註釋書を記述したことになる。それは世界史の上で稀有の事實として特記されるべきである。しかも三疏は大陸に渡り大陸の佛家によって學ばれ傳えられる。『上宮聖德法王帝說』によると、太子の師の慧慈法師は、太子の造った『法華經』等の註釋（『上宮御製疏』）を本國高麗に持ち歸り流布させたという。慧慈の歸國は『日本書紀』によると、推古天皇二十三年（615）と推定される。それは太子が「三經義疏」の撰述を完了したと傳えられる年にあたる。また太子の著作は留學僧の手によって大陸に渡ったとも考えられる。叡山の慈覺大師圓仁が入唐の折、入手書寫して我國に持ち歸った『勝鬘經義疏私鈔』六卷は、太子の『勝鬘經義疏』に對して荆溪湛然の弟子の法雲寺明空が註釋を施した書である。この書は我國に傳來して流布し現傳する『勝鬘經義疏』の註釋として唯一のものである。我國の凝然の著わした『勝鬘經疏詳玄記』十八卷も現存するのは第六～十八卷のみである。凝然は他の二疏にも註釋を施し、自ら三經學士と稱している。

No. 2185『勝鬘經義疏』一卷 日本聖德太子撰 本書は大正藏では寶治年間版本を原本とし、安永八年版本、明治二十八年蕃根版本、及び『大日本佛教全書』所收本をもって校合して收藏する。『勝鬘經疏』と略稱し、また『勝鬘上宮疏』、『上宮太子勝鬘經義疏』とも具稱する。「三經義疏」の一。求那跋陀羅譯の『勝鬘師子吼一乘大方便方廣經』一卷を註釋したもの。初めに經題を釋し、次に經文を序說・正說・流通說の三段に大分して解釋する。正說で更に三科を立てる。すなわち1. 乘の體を明す五章（嘆佛眞實功德章・十大受章・三大願章・攝受正法章・一乘章）、2. 乘の境を明す八章（無邊聖諦章・如來藏章・法身章・空義隱覆章・一諦章・一依章・顛倒眞實章・自性清淨章）、3. 行乘の人を明す一章（如來眞子章）。これは經末の文言によって全體を十四章に分解し秩序化して三科に大別したものである。經文の細部に拘泥することなく、經文の要旨を簡潔に叙述し奧義を論明することを主眼としている。顯眞撰『聖德太子傳私記』卷上など、本書が「初疏」で略疏であり後に撰せられた廣疏が別に存在したかの様な記録を残す資料もあるが廣疏の如きものは現傳しない。撰述の時期は『上宮聖德太子傳補闕記』によると、推古天皇十七～十九年（609～611）であり、『維摩經義疏』・『法華經義疏』に先行する。これ以前に太子は推古天皇に本經の講讀を行ったと傳えられる（『日本書紀』は推古天皇十四年とし、『上宮聖德法王帝說』等は推古天皇六年とする）。その史實は本疏撰述と關連するものと考えられている。本書は我國における最古の釋經の書であると同時に、嘉祥大師吉藏（623）の『勝鬘寶窟』と俱に『勝鬘經』の諸註釋書を代表するものでもある。両者はほぼ同時代であるが、吉藏の『勝鬘寶窟』に比して、本疏は簡にして要を得ており、作者自身の思想的特徴もよく表

われている。依用した典籍も後代のものに比較して著しく限界をもつものである。經典は『法鼓經』、『優婆塞戒經』、『涅槃經』、『般若經』、『維摩經』の五經を引用する。諸師の説は梁の光宅寺法雲（467～529）や隋の淨影寺慧遠（523～592）を初めとして引用する。諸家の説を引用する際には「法雲法師云」、「義家」、「本義」、「舊釋」、「餘流」等と記している。太子自身の説は「私釋」とか「私意」と記して論述するのである。「本義」というのは何を指すのか明らかでない。近時、敦煌出土の古寫本『勝鬘經義疏』（北京圖書館藏，奈—93）との間に類似點が指摘されている。敦煌本義疏の撰者は不明であるが、法雲と同時代の莊嚴寺僧長（466～527）に比定されている。以上、要するに、當時傳來していた若干の註疏を参考にし、時に自己の見解をも加えて、本書を製作したものとみられる所以である。正倉院文書に、吉藏、靖邁、元曉、惠範等の義疏が挙げられており、撰者未詳の『勝鬘義記』、『註勝鬘經』の名も記されていることも、その傍證とされている。

本書の註釋には、唐の明空の『勝鬘經義疏私鈔』六卷、凝然の『勝鬘經疏詳玄記』十八卷等がある。また、普寂の『勝鬘師子吼經顯宗鈔』の如きは吉藏の『勝鬘寶窟』と俱に本書を依用して細釋を作しており、興味深いものがある。

No. 2186『維摩經義疏』五卷 日本聖德太子撰 本書は大正藏では寶治年間版本を原本とし、明治三十年蕃根版本、及び『大日本佛教全書』所收本をもって校合して收藏する。『維摩經疏』、『維摩詰經義疏』とも、『維摩上宮疏』とも稱する。鳩摩羅什譯『維摩詰所說經』三卷を註釋した。「三經義疏」の一つ。初めに經題を解釋し、維摩詰を已登正覺の大聖であると論明する。次いで經文解釋では序說（佛國品～菩薩品の四品）、正說（文殊師利問疾品～見阿闍佛品前半の七品半）、流通說（見阿闍佛品後半～囑累品の二品半）に三分する。序說は更に原起序（佛國品）、述德序（方便品）、顯德序（弟子品、菩薩品）に三分する。撰述の時期は推古二十～二十一年（612～613）とされているが、『維摩經』の講讀のことは記録にない。また前述した本書に引用される『百行章』の成立年時、およびそれとの對比關係は、偽撰說の重要な根據として指摘されたものである。しかし眞偽はいまだに決せられていない。本書の述作態度はその主眼を經の要旨の註釋に置く所にある如くである。そのためか本書は必ずしも隨文解釋とはなっていない。經典では『無量壽經』、『乳光經』の二經、論典では『大智度論』を引用する。諸師の説としては「肇法師云」、「肇法師解言」、「法空法師解釋」、「中公解言」、「舊義」、「新義」、「有一云」、「釋者曰」、「或云」、「又一解言」等とか、「餘流」、「外論」、「外老」、「春秋傳」、「書」、「百行」等と記して、僧肇や道生等の説を引き、外典をも用いている。「肇法師云」とは僧肇（374～414）の『註維摩』の所説を摘出してのことであるが、本書は殊に僧肇の説を重視しているといわれる。また「百行」は問題の『百行章』のことであり、作者の杜正倫は唐初の人で、太子より少しく後代の人である。他の二疏におけると同様、太子はここでもまた「不_レ須也」とか、「私釋」、「私懷者云」などと記して自説を披瀝している。本書は奈良時代から既に學僧の間ではよく讀まれていた如くである。註釋には、凝然の『維摩經疏菴羅記』四十卷がある。

No. 2187『法華義疏』四卷 日本聖徳太子撰 本書は御物眞筆本が現傳するので、それを原本とし、寛治元年版法隆寺藏本、明暦元年版本、天和二年版本及び『大日本佛教全書』所收本、『日本大藏經』所收本をもって校合して收藏する。『法華經義疏』、『法華經疏』、『法華疏』ともいい、また『聖徳太子法華義疏』、『法華經上宮王義疏』などともいう。鳩摩羅什譯『妙法蓮華經』七卷の二十七本品（いわゆる羅什譯のままの提婆品と普門品の偈頌とを缺く原始型の二十七品本を註釋したもの。「三經義疏」の一。まず初めに經の大意を述べ、萬善同歸の一乘因果の大理を顯示し、次で經題を註釋する。次に三分科説を示して、二十七品の經文解釋にはいる。即ち、1. 序説では序品第一を、2. 正説では方便品第二より分別功德品第十六の前半にいたるまでを、3. 流通説では分別功德品後半より勸發品第二十七までを註釋している。本書は主に梁の光宅寺法雲（467～529）の『法華義記』八卷（『法華經』二十七品本に依る）に依據して分科を作り註釋を加えて、その所説をも引用する。しかし當時傳來していた若干の註釋類も利用している如くである。天台大師智顛の『法華文句』、嘉祥大師吉藏の『法華義疏』と同文の箇所も見出される。法雲の『法華義記』の説は「本義」、「有義」とか「本疏」とか「本釋」と記して、これを引用しているが、必ずしも常に無條件にこれに依るのではない。時に「大異」、「少異」、「似_レ少不_レ當」とか「今不_レ須」とかと記して、その説を採用せず、また「私懷者」とか「私意」とか「今」等と記して、自説を述べる箇所が二十數箇所もある。

例えば殊に安樂行品第十三の「常好坐禪」をいわゆる親近處とする經文（「常好坐禪、在於閑處、修攝其心」）に對して、これを不親近常好坐小乘禪師と解釋し不親近處として斥け、特に四安樂行をもって萬行の總本と理解するなどは、『義記』の説を用いなかっただけでなく、經の文上の内容を取らず何とか新義を洞察せんとして批判精神を發揮している特異な例である。また後の我國の佛教に少なからぬ影響を残すにいたった「一大乘教」、「一大乘機」、「一大理」、「一大果」、「一大車」等の特色ある熟語は、現存の太子自筆の草稿の修訂消字の例などから、相當の工夫を経た上で書き記された語句であると知られるという。撰述の時期は、推古天皇二十二年～二十三年（614～615）、太子四十二歳の時の成立といわれる。それより以前、推古天皇六年に『法華經』、『勝鬘經』を講讀したということが『法隆寺資財帳』に見え、推古天皇十四年に『法華經』を講義したということが『日本書紀』に見える。記録によるかぎり、本書は太子晩年の撰述であり、「三經義疏」中、最後の製作ということになる。「三經義疏」の中、この『法華經義疏』のみは太子自筆と傳えられる草稿本が現存し京都御所に奉安されている。撰者自身の細字の加筆、貼紙書き改め、上下文字の修正、消字添削など、著者でなくては不可能と考えられる痕跡の見られる貴重本である。寶龜三年（772）に誠明や得清等の八人が入唐して、鑑眞の遺弟である龍興寺靈祐大律師に本書四卷を『勝鬘經義疏』一卷と俱に贈ったという。本書の註釋は僅かに宗性の『法華經上宮王義疏抄』殘缺一卷と、凝然の『法華疏慧光記』六十卷等があるのみ。詳細は花山信勝『^{聖徳太子}御製法華義疏の研究』（昭和8年、東洋文庫論叢第18卷）を参照されたい。

(2) 法華經關係

No. 2188『法華略抄』一卷 日本明一撰 本書は大正藏では御物聖語藏藏本を原本とする。『法華經』二十八品を各品ごとに來意・釋品(名)・釋文の三段に分ちて解釋したもの。撰者の明一(728~798)は奈良東大寺に住した僧で、學の譽高かったという。他に、『最勝王經註』十卷、『法華記』二卷等の著述があったとされるが、現傳しない。本書は本來三卷または四卷あったと傳えられるが、現傳のものはその前後各卷を缺く。したがって現存の一卷のみでは、作者の主張、法相宗の立場は明確には知りえない。現存の一卷は二十八品の中、藥草喩品第五より普賢菩薩勸發品第二十八までを廣略の差はあれ各々來意・釋品・釋文の三段をもって略述するもので、前四品を缺くのみであるから、概略は盡くされているといえよう。しかし佚われたものは二卷に及ぶから、そこでは何かがある程度まで深く論究されていたものと推察される。

No. 2189『妙法蓮華經釋文』三卷 日本中算撰 本書は大正藏では國寶醍醐寺藏古寫本を原本とする。略して『法華釋文』、『法華經釋文』ともいう。本書も法相宗の學僧である興福寺の中算(または仲算、忠算。935~976)の手になる、特色ある『法華經』研究である。その自序によると、戸部卿藤原文範の求めに應じて、『法華經』二十八品に對する諸家の音訓義を廣く蒐集、検討して補正したもので、それまでの我國における『法華經』の音訓讀の不備や誤りを訂正した完全版を作成しようとの意圖をもって撰述されたものであると知られる。

すなわち中算は「法華釋文序」において從來の諸家の音義は何れも不完全であると批判し、更に「然復有曇捷法師之單字，文雖盡義猶闕，有大乘基師之音訓，義雖窮文尙少讀者常迷，還恨先賢」と批評して、唐曇捷のもの(『法華音釋』か、佚)も窺基のもの(『法華音訓』か、佚)も一長一短で後學をして迷惑せしめると論斷している。本書は、諸宗の註釋類に加えて佛教以外の典籍も多用している。その中に現傳しない佚書が多く見られるのは興味ぶかい。その構成は「法華釋文序」に續いて經中の字數に關する諸説を紹介した後、各品の音訓義に言及するという順序を取る。「序」の終りに「時景子年建酉月朔五日，興福寺釋中算聊自叙之云爾」と記されているが、「景子」というのは甲子即ち康保元年(964)か丙子即ち貞元元年(976)かの何れかであろう、とされる。

No. 2190には、弘法大師空海(774~835)の著わした『法華經開題』及びその異本六種の計七種が收められている。撰者名はないものが多いが、内容からみて空海の作とされる。その中『法華經開題』と題するものは三本あり、それらは最初の句により、區別して「開示茲大乘經本」、「重圓性海本」、「苑河女人本」と呼稱されているが、内容は殆んど同様である。相違點はそれらが異なる法會における異なる講演にもとづいたものであるところに由來しよう。何れも、眞言密教の立場から『法華經』の要旨を叙述し、經題を解釋したものである。

No. 2190A『法華經開題』一卷 日本空海撰 但し撰者の名は記されていない。本書は大正藏では久安六年寫高山寺藏本を原本とし、長寛三年寫高山寺藏本、永正八年刊高野山正智院藏本、及び『弘法大師全集』所收本をもって校合して收藏する。これは上述した三本の『法華經